

# AIと肝疾患診療 ～AIによるハイリスクNAFLD患者の拾い上げ～

肝臓川柳

AIで 診断感度が 超え～わい

( (超え～わい…え～わあい…え～わあい…え～わあい…え～わあい…AI… ) )

AIの技術は最近飛躍的に進歩しており、医療現場でも一部徐々に利用されつつあります。肝疾患診療のサポートに関してもAIの活用の模索が始まっています。

NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）は、ウイルス肝炎と同じように慢性化、発がんの危険性がある疾患であり、的確な患者さんの拾い上げが必要です。

NAFLDの診断には、現在“肝生検病理組織”の結果が必要ですが、侵襲のある検査の上に一定した見解が得にくく、肝生検に代わる方法として様々なスコアの算出や画像検査が行われていますが、信憑性の高い方法はまだ確立されていません。

済生会吹田病院名誉院長の岡上武先生は、最近、通常の臨床指標11～12項目を入力しAIを利用することで極めて感度・特異度に優れたNAFLD診断法を開発されています。

11月26日開催の肝疾患診療従事者研修会（Zoomウェビナー）でもその一端を視聴することができます。是非皆さん、奮って登録してご覧ください。

今後、肝疾患診療においてもAI技術の進歩、活用に目が離せなくなりそうです。

11月26日（木）19：00～20：15 第35回福井県肝疾患診療従事者研修会  
（案内は別紙参照）



20201126第35回肝疾患診療従事者研修会



## これだけ覚えておいて損はない！今回のポイント

AIの技術の進歩により、肝疾患診療のサポートに関しても活用の模索が始まっています。NAFLDの診断において、現在様々な方法が実施されていますが、最近、通常の臨床指標の項目を利用しAIを活用することで極めて感度・特異度に優れたNAFLD診断法が開発されています。

（文：福井県肝疾患診療連携拠点病院 肝疾患センター長 野ツ俣 和夫）